

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepps/>

第173号 会 報 2001年 7月 25日

目	次
会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第109回総会報告・・・・・・・・・・	3
第212回運営委員会報告・・・・・・・・	3
評議員会報告・・・・・・・・・・	5
会計報告・・・・・・・・・・	6
EPS関連報告・・・・・・・・・・	8
地球電磁気研究連絡委員会報告・・	10
極地研究連絡委員会報告・・・・・・・・	10
電波科学研究連絡委員会報告・・	11
SCOSTEP専門委員会報告・・・・・・・・	11
分科会活動報告・・・・・・・・・・	12
第110回総会/講演会関係・・・・・・・・	13
田中館賞候補者推薦の募集・・・・・・・・	18
国際学術基金関係・・・・・・・・・・	18
研究助成・学術賞等の募集・・・・・・・・	19
関連研究会のご案内・・・・・・・・・・	20
人事公募・・・・・・・・・・	20
賛助会員リスト・・・・・・・・・・	21
SGEPSS Calendar・・・・・・・・・・	22

第110回SGEPSS講演会講演申込みの締めきりは	9月7日です。詳細は13ページを御覧下さい。

会長挨拶

第21期会長 荒木徹

昨年12月に第21期の会長、評議員、運営委員が選挙され、2月27日の20期21期合同の引継運営委員会から21期の活動が始まりました。21期会長としてご挨拶申し上げます。

高い識見とリーダーシップをお持ちの会員が多数おられる当学会の中で私が会長の最適任者であるとは思えず、21期会長にはより適当な方をと考えていましたが、選ばれた以上は及ばずながら学会の発展に最大限努力する所存でありますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。幸い、当学会は、意識の高い会員と実行力のある運営委員会、適切な助言を頂ける評議員会に恵まれていますので、皆様のご意見を聞きながら円滑な運営に務めたいと考えています。

会報172号でお知らせしましたが、西田篤弘会員は、この3月に、日本学士院賞、東レ科学技術賞を受賞されました。同会員はまた、3月末のヨーロッパ地球物理学会でAlfvenメダルをお受けになりま

した。これらは、同会員の永年のご精進が報われたものであり、心からお祝い申し上げます。このことは、また、当学会の存在と活動を広く世に知らしめるものであり、誠に喜ばしい事です。西田会員は、東レ科学技術賞の賞金に私財を加えて、若手研究者の学術交流のために巨額の寄付を申し出られました。ご厚志に対し学会を代表して厚くお礼申し上げます。運営委員会では、これを「西田国際学術交流基金」としてお受けし、ご趣旨を生かせるよう内規の整備を行いました。

前期運営委員会から引き継いで解決すべき問題として、(1)学会名の見直し、(2)学生会員の増加、(3)賛助会員の維持・勧誘、(4)科研費細目「超高層物理学」の見直し、(5)次期会長候補の選考、が今期に申し送られています。

当学会の名前は、1987年に「日本地球電気磁気学会」から「地球電磁気・地球惑星圏学会」に変わりました。今再び、よりわかりやすい名前に改めるべきだとの声が上がっていますが、改名当時の論争を思うと、再改名は、多くの会員が納得できる具体的な名前が見出せるかどうかにかかっています。運営委員会では、ワーキンググループを設けて会員諸氏

のご意見を伺うことにしましたので、積極的な提案を期待します。(2)については、大学院学生は研究者を指向するものとして学会員になるのが望ましいので、担当の先生方にはそのようにお薦め頂くようお願いいたします。賛助会員は、財政面と社会との繋がりという二点から重要ですが、賛助会員側から見たメリットの明確化が必要であり、この点を運営委員会で検討しています。科研費細目名「超高層物理学」は現状に合わなくなっていますが、新細目名は、他学会との関係もあって更なる調整が必要です。科研費の分類について抜本の変更が計画されているようで、会員の皆様には、まずは、この分野が消えないよう多くの申請を出していただくようお願いいたします[会報144号「科研費補助金の育成」(大家17期会長)参照]。(5)は、次期会長を2年前に選出しスムーズな引継を計ろうとするもの[会報171号「会長挨拶」(松本前会長)参照]です。運営委員会では、「副会長、評議員、運営委員を2年毎の選挙で選び、副会長は2年後に会長になる、副会長は、評議員会、運営委員会の副議長を務め、会長に事故のあるときは、会長代理を務める」という案を提案し、秋の総会で議決を図ることにしています。



松本前会長の提案による分科会は、宇宙天気研究会、波動研究会、アラスカロケット研究会、グローバル地磁気観測研究会、CA研究会、プラズマ粒子シミュレーション研究会、宇宙飛翔体環境研究会が活動を開始し、新たに古地磁気・岩石磁気研究会が発足しました。これらは、関係他学会との連携を計り、当学会活動の範囲を広げる重要な試みですので更に充実されることを期待します。

昨年6月に「地球惑星科学合同大会運営機構」が設立され[地球惑星科学関連学会連絡会ニュース

No.20参照]、2001年以降の合同大会はこの機構により運営されることになりました。これは、第1回大会(1990年、東工大)から続いてきた担当大学LOCによる合同大会運営が限界に達し恒常的な組織が必要になったためですが、新組織設立の過程で激しい論争があり、前期運営委員会は合同大会の創設と運営に主導的に関わってきた当学会の主張を通すべく精力的に対応されました。その結果作られた「機構」には、当学会からも10人近くの方が参画して重要な役割を果たしておられます。私達は、大会運営を機構にお任せしてしまうのではなく積極的に支えて合同学会の発展に寄与しなければなりません。

会長の役割の一つは、EPSへの出版助成金(科研費研究成果公開促進費)の申請代表者になることです。4月に永年EPS発行の実務を担当しておられるテラバブの押田さんに京都に来て頂き説明を受け、EPSの価値を再認識しました。EPSの破格とも言える高い評価は、近年の力武、小口、河野、本蔵歴代編集長の下で発展してきたJGG時代に築かれたものであり、当学会の財産として守り育てていく義務があると感じています。会員の皆様が良い論文を出るだけ多くご投稿下さるようお願いいたします。

6月6日に地球物理学関連学会会長等懇談会が開かれ、科学技術行政組織についての説明がありました。関係組織として、総合科学技術会議(内閣府)、科学技術・学術審議会(文部科学省)、日本学術会議(総務省)がありますが、総合科学技術会議に「日本学術会議の在り方に関する専門調査会」が設けられており、研究者の意見を下から吸い上げる役割を不十分ながら果たしてきた学術会議の将来が心配されます。今後の動きを監視し、機会があれば意見を具申する必要があります。

当学会の会員構成は、専門研究者を主とする鋭いスペクトルに特徴があり、それが学会としての纏まりと高いレベルの研究を生み出してきたのですが、他方、外から見てわかりにくい面がありますので、社会の理解と支持を得るために情報発信・普及・教育活動にも努力しなければなりません。そのために専門研究者以外の方の参加をしやすくする工夫が必要だと考えます。また、青少年の関心を深めるためには、中学や高校の理科教育にも無関心ではられません。最近では、高校の地学履修者が極めて少なくなり、また、地学教科書から当学会がカバーする学問分野が消えていることに注意する必要があります。当面、大学1,2年生に対する講義やセミナーを積極的に担当して、多くの学生をこの分野に誘導することが重要です。

言うまでもなく「学会」は、会員の総意に基づいて運営される組織です。情報と意見の交換のために学会のホームページと会報の充実を計っていますので、これらを利用して積極的にご意見をお寄せ下さるようお願いいたします。

第109回総会報告

109回総会は2001年6月4日(月)から8日(金)まで国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて行われた地球惑星科学関連合同大会の4日目、15時15分から17時25分まで開催された。

まず中村正人会員による開会の辞の後、荒木徹会長の提案により渡部重十運営委員が議長に指名された。荒木会長の挨拶に続いて、家森俊彦運営委員より第212回運営委員会の報告、綱川秀夫運営委員より合同大会関連の報告、小野高幸運営委員よりEPS運営委員会報告がなされた。

次に、藤井良一会員より、SCOSTEP関連報告として、次期国際協同研究計画(案)"CAWSES"(Climate and Weather of the Sun-Earth System)の計画案策定状況について報告があった。日本学術会議地球電磁気学研究連絡委員会からは、上出洋介会員、宇宙空間研究連絡委員会から向井利典会員、そして、電波科学研究連絡委員会から大村善治会員が報告を行った。

次に議事に移り、山崎俊嗣運営委員より平成12年度決算・平成13年度予算案が示され賛成多数で承認された。この時、定足数231に対して、出席数270(委任状166)であった。

西田国際学術交流基金の設立に伴う国際学術交流事業運用規定の改定については、活発な議論の末、品川裕之運営委員より示された改定案が承認された。この規定に基づき基金の運用を開始する。ただし、規定の細部については改善すべき点が指摘されたので、次回総会までに運営委員会で再度検討することになった。

副会長制の導入について、荒木会長から提案と趣旨説明がなされ、議論がなされた。荒木会長から今後運営委員会を中心に議論を深め、次回総会で規定の改正を行いたい旨が述べられた。

最後に次期開催地である九州大学の飯島健会員より、第110回総会(11月22日-25日)の準備状況について報告がなされた。

式次第は以下の通りであった。

第109回地球電磁気・地球惑星圏学会総会 式次第

- ・開会の辞
- ・議長指名
- ・会長挨拶
- ・諸報告
 - 第212回運営委員会報告
 - 合同大会関連報告
 - EPS誌運営委員会報告
 - SCOSTEP委員会報告
 - 学術会議研究連絡委員会報告
- ・議事
 - 平成12年度決算・平成13年度予算案
 - 国際学術交流事業運用規定の改定
 - 副会長制の導入について
 - その他
- ・次期開催地
- ・閉会の辞

(運営委員会)

第212回運営委員会報告

[日時] 2001年6月5日18時-21時50分

[場所] 国立オリンピック記念青少年総合センターC104号室

[出席] 荒木徹、麻生武彦、家森俊彦、井口博夫、大村善治、小野高幸、小原隆博、品川裕之、綱川秀夫、中村正人、橋本武志、松岡彩子、山崎俊嗣、渡部重十、早川基(運営委員補佐)

[欠席] 歌田久司

1. 新入会員・退会者承認

今年3月以降の新入会員23名、および退会者8名を承認した。

新入会員(順不同)

<正会員>

- 三好由純(東北大学)
- 重野伸昭(地磁気観測所)
- 塩見慶(財・リモートセンシング技術センター)
- 木本雄吾(宇宙開発事業団)
- 岩井宏徳(通信総合研究所)
- 関 浩二(通信総合研究所)

<学生会員>

- 高橋芳幸(東北大学)
- 吉田直文(東北大学)
- 松清修一(九州大学)
- 上野玄太(京都大学)
- 佐藤光輝(東北大学)

新海雄一（総合研究大学院大学）

川村誠治（京都大学）

辻田大輔（東京大学）

陣 英克（東京大学）

細谷 亮（東北大学）

小川 敢（佐賀大学）

田中宏樹（東京大学）

秋場良太（東京大学）

横田勝一郎（東京大学）

佐藤 学（東北大学）

中城智之（東北大学）

新堀淳樹（東北大学）

<賛助会員>

（有）オプティマ （6月29日承認、追記）

<シニア会員>

渡辺富也（東北工大）

退会者（順不同）

<正会員>

藤田 晃（甲南大理学部）

市川敏郎（朝日大歯学部）

源 泰拓（地磁気観測所）

<学生会員>

伊藤理子（東工大地球惑星）

喜岡理砂（宇宙科学研究所）

<外国会員>

Emil Soderberg (USA)

Peter J. Smith (UK)

<賛助会員>

（株）ケイディディモバイル

2．平成12年度決算および平成13年度予算案・会計年度の半年移行・学会事務センター保管JGG誌バックナンバーの移管

平成12年度決算および平成13年度予算案について検討し、運営委員会としては了承し、第109回総会にはかることになった。また、会計年度の半年移行（前倒し）について議論し、（n+1）年度の予算をn年度の秋の総会で審議することにより、特に大きな問題は発生しないであろうということで意見が一致した。現在学会事務センターで保管しているJGG誌のバックナンバーについては、3冊のみ保管することにして、余分については当面、山崎会員が保管し、希望する会員に利用していただくことになった。

3．国際学術交流招聘者決定

平成13年度の学会基金による外国人招聘には、3件の推薦があり、審議の結果、下記の2件を採択し

た。補助金額は、航空賃の見積書を提出してもらい、それに、適切な額の日当を加えて決定することになった。

Shau Yen-Hong（台湾）2001.11.21-11.27
110回SGEPSS 講演会出席（鳥居雅之会員推薦）

Yang Zhenyu（中国）2001.11.21-11.26
110回SGEPSS 講演会出席（乙藤洋一郎会員推薦）

4．国際学術交流規定（西田基金）改定案

4月に西田会員からの寄付金で設立された西田基金を従来の学会基金による国際学術交流と窓口を同じにするため品川委員がまとめた規定改正案につき議論し、第109回総会にはかることになった。

5．学会ホームページ長谷川・永田賞推薦手順案内の改訂

学会ホームページの長谷川・永田賞推薦手順案内は誤解を招きやすいので、推薦者にとって明瞭にわかるよう表現を改めることにした。

6．大林奨励賞候補者推薦作業委員会委員

第21期大林奨励賞候補者推薦作業委員会委員について議論し、荻野竜樹会員を委員長とし、残り5名の委員の決定は会長に一任することになった。

（追記： 後日、以下の6名の会員に決定した。荻野 竜樹（委員長）、丸橋 克英、湯元 清文、小山孝一郎、笹井 洋一、渋谷 秀敏）

7．2002年ニュージーランドWPGM (July 9-12)への参加について

米国地球物理学連合（AGU）より、会長宛、2002年7月9日から12日までニュージーランドで開催されるWPGM(Western Pacific Geophysics Meeting)への当学会の協賛について依頼があったので、参加することとし、"a Corresponding Program Committee Member"には、小原運営委員を推薦することにした。

8．合同大会関連事項

綱川運営委員より、来年以降の合同大会について運営機構での議論の状況について報告があった。開催場所はおそらく今年と同じであるが、開催時期はサッカーのワールドカップ開催との関係で、今年より少し時期が早まり、5月下旬(5/27-31)

になる可能性が高い。報告の後、来年度についても当学会は参加する方針が確認された。

9 . IUGG関連・募金委員推薦

募金委員推薦の候補者として、運営委員会としては、木村盤根会員と松本紘会員を挙げ、評議員会に報告することにした。(追記：翌日の評議員会での相談の結果、西田篤弘会員と河野長会員を学会として推薦することになった。)

10 . SCOSTEP, 各研連等報告

小野運営委員より、SCOSTEPでは、次期国際協同研究計画(案)"CAWSES"(Climate and Weather of the Sun-Earth System)の計画案策定状況について報告があった。地球電磁気学研連からは、5月に開催された委員会の議事録が資料として配付された。

11 . EPS関係

小野運営委員より、5月に開かれたEPS誌運営委員会について報告があった。

12 . 分科会関連

井口運営委員より、「古地磁気・岩石磁気研究会」設立の趣旨説明があり了承された。合同大会開催時に分科会を開催する場合必要となる会場費については、学会予算から支出することにした。

13 . 第110回総会・講演会について

11月22日から25日にかけて九州大学で開催される、第110回総会・講演会の講演申し込み締め切りを、郵送およびWEB投稿とも9月7日と決定した。予稿集の様式を、編集の便を考慮して、変更することにした。詳細は、会報に掲載予定。

14 . 会報記事・次回発行予定・学会HPについて

次号会報は、7月10日原稿締切、7月25日発行予定で作業を進めることになった。

15 . 賛助会員について

賛助会員の入会を増やすために、賛助会員ホームページを当学会ホームページからリンクするとともに、会報に、賛助会員のリスト等を掲載することにした。

16 . 副会長制導入規定改正

第109回総会で今期から副会長制を導入することについて議論し、第110回総会で品川運営委員がま

とめた規定改正案を提示することになった。

17 . 名誉会員の合同大会参加費について

名誉会員の合同大会参加費については、今後の合同大会側の参加費に関する動きを見て再度議論することにした。

18 . 学会名について

学会名検討について広く会員の意見を調査し、議論を進めるため、ワーキンググループを設置した。世話人として、井口運営委員と大村運営委員を選んだ。小原運営委員より「宇宙地球電磁気学会」という提案があった。

(運営委員会)

評議員会報告

日時 : 2001年6月6日(水) 19:05-21:00

場所 : 国立青少年総合センター-C104号室

出席者 : 江尻、大家、上出、河野、国分、鶴田、西田、福西、本蔵、松本、荒木

報告者 : 家森、大志万

配布資料

第212回SGEPSS運営委員会議題

第210、211回運営委員会議事録

新入会員・退会者名簿

平成12年度決算書・平成13年度予算書

国際交流事業運用規定改正案

副会長制導入に伴う規約・内規改正案

1. 報告 :

配付資料に基づき、家森総務担当運営委員から運営委員会報告があった。この報告に関連し、西田会員からのご寄付(西田国際学術交流基金)に対して、松本前会長から謝辞が述べられた。

2. 議事 :

(1) 大林奨励賞審査

配布された報告書に基づき、候補者の選考の経過と結果について大志万

大林奨励賞候補者推薦作業委員会委員長から説明があった。その後、審査に入り、2名の会員へのこの賞の授与を決定した。

(2) IUGG募金委員推薦

会計報告

上田誠也IUGG2003組織委員長からの募金委員推薦依頼について議論し、西田、河野両会員を推薦することを決定した。

議事後、学術会議（総務省）、科学技術・学術審議会（文部科学省）、総合科学技術会議（内閣府）の動向と相互の関係、科研費審査員選出方法等について意見を交換した。

第109回総会において、平成12年度本会計決算・平成13年度本会計予算案および、学会基金と特別会計の平成12年度決算が承認されましたので、以下のとおり御報告します。

（会計担当運営委員 山崎・松岡）

地球電磁気・地球惑星圏学会

平成12年度 本会計決算書

（平成12年4月1日～平成13年3月31日）

収入の部				
科目	12年予算額	12年決算額	差異	備考
会費収入	8,614,000	8,443,450	170,550	
正会員会費	7,080,000	6,960,000	120,000	93%（過年度分を含む） 580名分/623名
学生会員会費	360,000	354,000	6,000	93%（過年度分を含む） 59名分/63名
海外会員会費	150,000	155,450	△ 5,450	47名
シニア会員会費	24,000	24,000	0	100% 8名/8名
賛助会員会費	1,000,000	950,000	50,000	19口/14社21口
出版助成金	25,200,000	25,200,000	0	平成12年度科学研究費補助金※1
予稿集売上代	650,000	624,300	25,700	第108回総会・講演会予稿集売上等
大会参加費	400,000	369,000	31,000	第108回総会・講演会参加費
料子収入	50,000	19,038	30,962	
雑収入	250,000	1,533,965	△ 1,283,965	S-RANP会議寄付金（793,590円）他
小計	35,164,000	36,189,753	△ 1,025,753	
前期繰越金	2,888,104	2,888,104	0	
合計	38,052,104	39,077,857	△ 1,025,753	
支出の部				
科目	12年予算額	12年決算額	差異	備考
管理費	2,330,000	2,480,548	△ 150,548	
業務委託費	1,900,000	1,967,348	△ 67,348	（財）日本学会事務センター事務委託費
通信費	200,000	226,653	△ 26,653	会費請求郵税、第21期役員選挙郵税等
印刷費	150,000	163,567	△ 13,567	第21期役員選挙書類印刷費等
旅費	50,000	56,400	△ 6,400	
雑費	30,000	66,580	△ 36,580	合同大会会場費等
事業費	32,575,700	31,959,073	616,627	
会誌分担金	28,595,700	28,595,700	0	分担金 3,395,700円 + 助成金 25,200,000円
会報印刷費	250,000	262,238	△ 12,238	No.168-171印刷費
会報発送費	600,000	511,760	88,240	No.168-171発送費
大会開催費	1,000,000	750,000	250,000	第108回総会・講演会
予稿集印刷代	900,000	728,438	171,562	*
広報活動費	30,000	0	30,000	
名簿作成費	700,000	618,957	81,043	2000年会員名簿作成費
その他	500,000	491,980	8,020	IUGG援助金等
基金交流事業費	600,000	300,000	300,000	国際学術集会出席補助金2名分
基金繰入金	400,000	400,000	0	
予備費	100,000	0	100,000	
小計	36,005,700	35,139,621	866,079	
次期繰越金	2,046,404	3,938,236	△ 1,891,832	
合計	38,052,104	39,077,857	△ 1,025,753	

※1 平成12年度科学研究費助成金対象学会（E・P・S合同編集学会）

- ①地球電磁気・地球惑星圏学会
- ②日本火山学会
- ③日本測地学会
- ④日本地震学会
- ⑤日本惑星科学会

平成13年度 本会計予算書

(平成13年4月1日～平成14年3月31日)

収入の部				
科目	13年予算額	12年予算額	12年決算額	備考
会費収入	8,497,000	8,614,000	8,443,450	
正会員会費	6,960,000	7,080,000	6,960,000	580名×12,000円
学生会員会費	360,000	360,000	354,000	60名×6,000円
海外会員会費	150,000	150,000	155,450	
シニア会員会費	27,000	24,000	24,000	9名×3,000円
賛助会員会費	1,000,000	1,000,000	950,000	
出版助成金	26,700,000	25,200,000	25,200,000	H13年度科学研究費補助金
予稿集売上代	650,000	650,000	624,300	第110回総会・講演会
大会参加費	400,000	400,000	369,000	〃
利子収入	30,000	50,000	19,038	
雑収入	250,000	250,000	1,533,965	第110回講演会要旨を学情へ登録
小計	36,527,000	35,164,000	36,189,753	
前期繰越金	3,938,236	2,888,104	2,888,104	
合計	40,465,236	38,052,104	39,077,857	
支出の部				
科目	13年予算額	12年予算額	12年決算額	備考
管理費	2,500,000	2,330,000	2,480,548	
業務委託費	1,950,000	1,900,000	1,967,348	(財) 日本学会事務センター事務委託費
通信費	200,000	200,000	226,653	
印刷費	150,000	150,000	163,567	
旅費	50,000	50,000	56,400	
雑費	150,000	30,000	66,580	
事業費	32,875,700	32,575,700	31,959,073	
会誌分担金	30,095,700	28,595,700	28,595,700	分担金3,395,700円(税込) + 出版助成金予算額 26,700,000円 (H13年度補助金額)
会報印刷費	300,000	250,000	262,238	
会報発送費	600,000	600,000	511,760	
大会開催費	850,000	1,000,000	750,000	第110回総会・講演会
予稿集印刷代	900,000	900,000	728,438	〃
広報活動費	30,000	30,000	0	
名簿作成費	-	700,000	618,957	
その他	100,000	500,000	491,980	
基金交流事業費	800,000	600,000	300,000	IUGG援助金200,000円
基金繰入金	200,000	400,000	400,000	
予備費	100,000	100,000	0	
小計	36,475,700	36,005,700	35,139,621	
次期繰越金	3,989,536	2,046,404	3,938,236	
合計	40,465,236	38,052,104	39,077,857	

平成12年度 特別会計

<長谷川・永田賞>

(平成12年4月1日～平成13年3月31日)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越金	595,052	賞牌費	190,050
利子収入	402	次期繰越金	405,404
計	595,454	計	595,454

<田中顕賞>

(平成12年4月1日～平成13年3月31日)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越金	643,404		
利子収入	483	次期繰越金	643,887
計	643,887	計	643,887

<大林奨励賞>

(平成12年4月1日～平成13年3月31日)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越金	585,219	賞牌費	140,767
利子収入	561	次期繰越金	445,013
計	585,780	計	585,780

学会基金

科目	金額
当期繰入金	400,000
前期繰越金	13,029,904
計	13,429,904

EPS 関連報告

1. EPSの発行状況

EPSは、1998年1月に創刊されて以来、Vol.50 (1998年) から現在Vol.53 (2001年) のNo.5まで順調に発行されている。投稿状況もおおむね順調で、Regular Issueについて最近1年間で平均すると月10編を超えている。内容的にも次第に多様な分野の論文が投稿されるようになってきている。特集号については、Vol.52でGPS, IGRF (International Geomagnetic Reference Field)、Vol.53でGreat Subduction Zone Earthquakesの特集号が既に出ており、以後Magnetic Reconnection, Asteroidal Surfaces, Electromagnetic Induction, Satsuma-Iwo Jima Volcano などの特集号が進行している。

2. EPSの購読状況

国内購読者数については、創刊時にJGG, JPEからひきついで購読者を維持しているのに加え、今年から地震学会の努力により300部購読者を増やしている。海外購読者数についてはほぼ横ばい状態である。昨年11月にEOSに広告を掲載した結果、海外から機関1、個人3の購読申し込みがあった。またEPSのホームページへのアクセス件数も増加している。今年もEOSなどへの広告掲載をおこないたい。EPS運営委員会では、各学会から海外研究者をリストアップしてもらってEPSを送付する(毎年200人程度)など、海外購読者数の確保・増加に向けて引き続き努力していく。

3. 出版社との契約更新

昨年12月、テラ学術出版との契約更新をおこなった。2001年 (Vol.53) より3カ年の契約で、EPSの年間総ページ数を1300ページに増やした。覚え書きとして、カラーページチャージを4万5千円/ページ (450ドル/ページ) と変更した。契約書には現れないが、引き続き電子出版の継続、EOS等への広告掲載や、著者への論文のPDFファイル送付などのサービスも継続してもらうことにしている。

4. EPS編集委員長の改選

2001年4月3日、編集委員長の任期を4年と定めた学会間内規に基づき、編集委員長選考委員会が開催された。(今回の選考委員会は各学会から2名ずつ計10名で構成。当日は各学会から少なくとも1名以上の参加があった。欠席した委員からも事前にメール等で意見を述べてもらった。) 議論の結果、全員一致で本蔵義守EPS「前」編集委員長にもう一期お願いすることを決定した。この結果は4月18日の編

集委員会・運営委員会合同会議の場でも報告され、了承された。また本蔵「新」編集委員長より、編集委員については半数ごとの改選にしたいとの希望が述べられた。

5. EPSオンライン購読の課金制への移行について

現在、論文のフルテキストまで含めたオンラインでの公開を無料で実施しているが、購読者確保のため、Vol.54 (2002年) からはパスワードを設定し、EPSのホームページ (フルテキスト) へのアクセス制限を実施したい。個人会員については2003年 (vol.55) まではハードコピー+アクセス料を現行の料金のまま維持する。しかし、オンライン出版の維持・管理には相当な費用がかかるため、機関購読については2002年 (Vol.54) から、個人会員については2004年 (vol.56) からハードコピーのみの購読の場合とハードコピー+オンライン購読の場合の料金を別個に設定することにしたい。

6. EPSへの投稿促進について

6-1. 各学会からEPSへの積極的な投稿を

EPSを内容的に充実させていくためには、各学会の会員が積極的にEPSに投稿することが必要である。EPSでは出版社に次のようなさまざまなサービスを提供してもらっている。

(1) 別刷りを購入する著者には、印刷原稿ができあがった段階でPDFファイルを送付するサービスをおこなっている。いわば「最も早い別刷り」であり、共著者へ送ったり著者のホームページに貼り付けたりすることが可能で、非常に好評である。

(2) カラーページチャージを1ページ当り4万5千円に設定している。(従来は12万円(ほぼ印刷実費に相当)であったものを値下げした。) A4版の大きさでこの価格でのカラーページの利用価値はきわめて大きい。また、カラーの別刷り代金は白黒の場合と同様である。

(3) 電子出版にはカラー図版を使用するが、印刷出版には同じ図面を白黒化したものを使用することも可能となっている。これにより、著者のカラー図版使用にかかる費用を大幅に軽減することが可能である。

(4) 若手研究者の投稿を奨励するため、EPS賞を設けることを検討している。年間1名。受賞者には副賞(旅費)を支給して合同大会で招待講演してもらう、などのアイデアが出されている。編集委員会を中心に検討をすすめる。

6-2. 特集号について

かねてから、日本人著者のみの特集号は認めないというEPSの編集方針に対して、たとえば火山活動・地震活動などローカルな情報を素早く特集に組

むことが困難である、との指摘があった。このような企画に対しては、(1) レギュラー論文と同様の扱いでゲストエディターは置かないが、(2) 同じ号にまとめて掲載し、目次に小見出しをつける等まとまった論文であることを明示する、(3) 特集号におけるPrefaceに相当する文章はResearch Newsとして同じ号に掲載する、という対応をとることになった(4月18日の合同会議)。これにより、インターナショナルジャーナルとしての質を落とすことなく、学会からの要望にも応えられるようになった。

7. 文部省からの科研費補助金

今年度は予定通り2670万円の内示があった。EPSは「特定欧文総合誌」として平成15年度(2003年度)まで科研費補助金の内約を受けており、財政的にはかなり安定した状態でEPSが発行できている。EPSの発展のためには、今後とも内容の充実、購読者の維持・拡大に努力することにより、十分な科研費補助金を確保していく必要がある。

8. EPS運営委員会会計報告

(1) 平成9年5月_平成13年3月までの決算

収入：各学会からの補助金計	6,000,000 円
利息	2,139 円
計	6,002,139 円
支出：編集・運営委員会旅費	682,431 円
通信費	69,022 円
販売促進費	451,420 円
次年度への繰越し	4,799,266 円
計	6,002,139 円

(2) 平成13年度予算

収入：前年度からの繰越し金	4,799,266 円
学会からの補助金	1,000,000 円
計	5,799,266 円
支出：編集・運営委員会旅費	450,000 円
販売促進費	450,000 円
予備費	100,000 円
次年度への繰越し	4,799,266 円
計	5,799,266 円

(EPS担当 小野高幸)

JGG誌のバックナンバーを学会事務センターで保管してきましたが、運営委員会で検討の結果、いったん運営委員会で引き取り、必要とされる会員の方に無料でお分けして有効利用いただく事になりました。

希望される会員は、巻・号、部数、送付先、担当運営委員の山崎までメール(toshiyamazaki@aist.go.jp)又はファックス(0298-61-3589)でお知らせ下さい。

JGG誌バックナンバー在庫(2001.7.1現在)

巻・号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	Suppl1	Suppl2	Suppl3
17(1965)	0	0	16	0											
20(1968)	0	7	7	8											
21(1969)	7	0	3	0											
22(1970)	4	-	7	11											
23(1971)	10	12	11	-											
24(1972)	12	12	12	12											
25(1973)	13	14	16	15											
26(1974)	14	18	11	15	0	0									
27(1975)	13	13	19	5	13	11									
28(1976)	17	17	17	16	17	16									
29(1977)	10	12	8	0	8	9									
30(1978)	11	13	13	8	13	12									
31(1979)	9	15	12	2	13	14							23		
32(1980)	9	15	3	37	27	18	29	27	15	15	14	13	19	12	20
33(1981)	0	11	8	0	5	5	5	5	6	7	6	4			
34(1982)	4	5	7	1	7	0	1	0	0	5	5	-			
35(1983)	0	0	0	0	0	3	5	4	5	0	2	-			
36(1984)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0			
37(1985)	0	0	0	0	26	51	26	16	26	16	26	37			
38(1986)	0	0	6	1	2	2	5	7	8	18	32	15			
39(1987)	0	0	0	0	0	3	5	5	4	0	0	0			
40(1988)	0	0	0	16	16	16	15	15	16	0	0	0			
41(1989)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
42(1990)	0	0	0	6	5	6	5	5	4	5	3	6			
43(1991)	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	2	1	0	0	
44(1992)	0	0	0	0	0	11	0	4	4	1	9	10			
45(1993)	0	0	0	0	0	0	2	4	4	5	4	-			
46(1994)	0	0	0	2	0	6	6	13	10	11	16	17			
47(1995)	0	0	0	9	9	12	8	13	14	16	12	12			
48(1996)	5	7	6	8	6	-	16	18	17	19	20	13			
49(1997)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	12		

地球電磁気研究連絡委員会

委員長 上出洋介
幹事 歌田久司

1. 第18期地球物理研究連絡委員会について

学会会議18期の活動方針：

人類的課題解決のための日本の計画 (Japan Perspective) の提案、学術の状況並びに社会との関係に依拠する新しい学術体系の提案。

第4部会は、理学の振興と研連の見直し問題を中心に活動する。今期から学会会議の中に評価委員会を設置し、自己評価機能を強化する。

2. IUGG札幌大会について

開催へ向けてのおおよそのスケジュール：

2001年7月：Program委員会（札幌）

2001年12月：同（San Francisco）

2002年1月：シンポジウムとコンピーナー決定

2002年春：Call for papers

2003年1月：Abstract締切

2003年5月：プログラム印刷

3. IAGA Hanoi大会について

IAGAとIASPEIのSecretary Generalsと上出委員長による合同準備会議（4月3-5日）の結果が報告された。論文の投稿数は十分（約1,200編）であるが、実際の参加がどの程度になるかが問題である。IAGAのSecretary Generalの改選が、ハノイで行なわれる予定。

4. 小委員会およびワーキンググループ

(1) 地磁気観測小委員会

IAGA Workshop on Geomagnetic Observatoriesの柿岡への誘致を行なった（開催は2002年または2004年）。

(2) 地球電磁気データ問題WG

17期の活動からの継続課題については、当面は、Upper関係者の間で検討を行うこととした。

5. 地球電磁気の将来計画策定について

(1) "太陽地球系" (主査 向井委員)

磁気圏、電離圏、超高層大気のサブグループに分けて作業をする。提言のキーワードは3点。

- ・Space plasma physicsとしての視点
- ・宇宙天気学の位置付け (目標 / time scale 等)
- ・地球から惑星へ視点の拡大

サブリーダーを中心にドラフト作りを進める。策定にあたっては、さまざまな境界条件 (国内他分野との関係、国際プロジェクトとの関係) を考慮する必要がある。関連して、IGY 50周年 (2007年) への対応 (SCOSTEPと共同で) も考える。

(2) "固体地球" (主査 本蔵委員)

総括を7月までに行い、それを土台にしてドラフト作りをする方針が示された。

(1)、(2)を通しての共通認識として、以下の4点を加えることが確認された。

- ・報告書は総花的なものにはせずに、評価を含めて的を絞ること。
- ・日本が国際的にリードできる研究テーマとすること
- ・10年スパンの将来計画とすること
- ・教育や社会への貢献も盛り込むこと

本年12月に、将来計画に関する共同シンポジウムを行なう予定。そのシンポジウムは、STE研、宇宙研、地震研の共同研究集会とする。

6. 情報公開について

本委員会に情報開示請求があった場合、開示により公平な議論に支障があると認められるもの以外は、原則として公開する。

極地研究連絡委員会報告

平成13年6月14日 於日本学会議

I. 第1回会合における委員長 (島村北大授)、幹事 (南極担当白石極地研教授、北極担当藤井 (理) 極地研教授) の選出、国際対応の役割分担、第18期活動計画の討議等の議事要旨が承認された。

II. 議事

1. 前回以降の極地研連事務局の、IASC、National Report、SCAR Bulletinなどへの対応について報告された

2. 学会会議関係として、「理学総合連絡会議」における研連の見直し、科研費複合領域への分科細目申請等について経過報告された

3. 南極関係は各作業委員会からの報告、本部の南極輸送問題調査会議で検討されている南極の将来構想と「しらせ」後継船の検討状況についての説明が

あった。

4. 北極関係としては、今年度からIASC(国際北極科学委員会)の対応が極地研から学術会議に変更となったこと、IASC評議会(4月)、AOSB(北極海洋科学会議)、EISCAT(欧州非干渉散乱レーダー)についての報告等がなされた。

5. 第18期極地研連の活動計画、目標については、我が国の極地研究の国際対応への具体的な戦略の提言、北極研究におけるIASCの役割の重要性の認識と積極的な関与などが提案された。

(麻生武彦)

電波科学研連報告

平成13年3月21日 於：日本学術会議

1. URSI本部からの連絡について

松本委員長(URSI会長)から、

(1) 5月連休明けにURSI Coordinating Committeeが開催され、次期総会における

Programme General Guide, eneral/Tutorial Lecture等の審議が行われること、

(2) ICSUにおいては、UnionよりもNational Memberの意見が尊重される傾向で、くつかのUnionから問題点が指摘されており、また生物系と物理系のvote/grantにおけるimbalanceもあること、

(3) このため、2月18-20日にParisでICSU Union's Meetingが開催されたこと、

(4) その結果、各UnionにUS\$5000のblock grantが支給されることとなったこと、

(5) さらに、COSTEDと協力し"Open and Distance Learning"に関するgrant、またMaastricht総会において"Bridging the Digital Devide" Symposiumを開催するgrantを、ICSUに要請する予定である、等が報告された。

2. 経過報告

(1) 科研費対応研連について

松本委員長、西田委員(学術会議4部会員)、多氣委員から、いろいろな科研費分科・細目審査員候補推薦研連に波研連が対応研連として参加したいとの申請に対する審議状況が報告された。論として、本研連の状況は以下のとおりである。

4部、分科/天文学：対応研連として参加

4部、分科/物理学、細目/素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理：対応研連として参加

4部、分科/地球科学、細目/固体地球物理学：対応研連として参加

4部、分科/地球科学、細目/気象・海洋物理・陸水学：対応研連として参加

4部、分科/地球科学、細目/超高層物理学：対応研連として参加

複合領域、分科/自然災害科学：対応研連として参加(新規)

複合領域、分科/プラズマ理工学：対応研連として参加(新規)

なお研連の見直しについては、松本委員長から今期において議論を深めたいとの発言があった。

(2) 日本学術会議第135回総会への報告

(3) 国際学術団体及び国際学術協力事業2000年度報告；細矢幹事から上記2資料が紹介された。

3. AP-RASC'01開催について

多氣幹事/小山委員(財務委員長)から募金状況などについて報告が行われ、研連委員の協力が要請された。なお、松本委員長より、AP-RASC'01時のBusinessMeetingに対する各分科会委員長の参加が要請された。

4. 各分科会報告 下記URLに掲載

<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/ursi/acreport/contents.html>

5. 研究動向紹介

多氣幹事から、「電波は健康リスクか？」と題し、最近の研究動向が紹介された。

(大村善治)

SCOSTEP専門委員会報告

委員長 藤井良一

国際協同研究計画"CAWSES"について

1. はじめに

SCOSTEPでは、今まで、IMS(1976-79)、MAP(1982-85)、STEP(1990-97)のようなSTP全域に関わる大規模な国際協同研究計画を策定し、実施してきました。現在STEPに続いて領域毎の研究計画

ISCS、S-RAMP、PSMOS及びEPIC計画が実施されています。SCOSTEPではこれらの計画が終了した後の2003年から2008年まで、太陽地球系のSpace WeatherとSpace Climateの研究を目的とした"CAWSES" (Climate and Weather of the Sun-Earth System)を計画しており、本年6月17日の評議会で計画案が承認されました。今後国内においても実施にむけて研究計画案を策定して参りますが、SGEPSSに大変深く関わる本計画を是非成功させ、太陽地球系科学をより発展させるために、皆様の計画案策定と実施への積極的な参加とご協力をお願いいたします。

2. 本計画の目的

太陽地球系物理学の最終目的は太陽地球系の物理過程をシステム全体として理解することです。本提案CAWSESでは、太陽地球系の中で生起している様々な現象の変動のタイムスケールを指標として、比較的短い時間変動現象 (Space Weather) と長い時間変動 (Space Climate) の研究を行ない、太陽地球系全体の物理をより良く理解することを目的としています。さらに研究で得られた成果や知見の社会への応用と教育への貢献も重要な目的として位置付けられています。

3. 今、本計画を実施する必要性

STEP期間に比べて現在の方が、ISTP衛星の配置や地上観測網が最適に近いこと、新たな観測技術や理論/モデルが発展して、より総合的な理解を得ることができる環境が整ってきたこと、更に、近い将来に大規模な太陽地球系国際衛星計画が実施される見通しであることがCAWSESをすみやかに開始することが必要な第一の理由です。また、国際間の情報伝達の飛躍的な発展により、多くの研究者が研究計画へ参加することが可能となり、発展途上国を含む多くの国の学生の教育へ貢献することも可能になっています。社会的な側面からは、グローバルな気候変動の解明、宇宙での人間活動や人工衛星等の安全な運用上、太陽地球系の様々な時間スケール現象の解明が必要な状況になってきているという社会的要請も大きな動機となっています。

4. 対象とする時間スケール

太陽フレアやCME、サブストーム、リコネクション、電離圏構造や電流、重力波などの数分から数時間のタイムスケールの現象から、地磁気嵐や太陽の自転に伴う数日から数週間の現象、太陽活動度や中層大気の組成や力学のような数か月から数(10)年

の現象、太陽放射強度変動や銀河宇宙線変動、気候変動など数10年から数世紀にわたる現象を対象とします。更に太陽地球系をより良く理解するために、他の惑星や古気象など地球や現在の環境と著しく異なる条件下のシステムを比較研究も推進します。

5. 今後の進め方

国際的なスケジュールは、
本年6月：SCOSTEP総会でCAWSES計画案が承認
CAWSES Science Steering Group (計画立案) 及
Steering Groups (個別課題毎に計画立案) の立上
2002年6月：SSGがビューローに実行案を提案
2003年1月：CAWSES開始 (1年目は準備も兼)

国内の進め方

学術会議のSCOSTEP専門委員会とSTPP専門委員会 (大村善治、小野高幸、小山孝一郎、上出洋介、菊池崇、小杉健郎、津田敏隆、藤井良一、向井利典、山内恭、湯元清文、渡辺堯) が核となって、広く意見を求めながら、国内の計画作りを進めています。

具体的には、

1) 国内での計画の周知 <http://www.stelab.nagoya-u.ac.jp/~scostep/>

2) 以下のWGによる国内計画案のサーベイと取りまとめ

太陽と太陽風 (小杉、渡辺)

太陽風-磁気圏-電離圏 (菊池)

磁気圏-電離圏-熱圏 (湯元)

電離圏-熱圏-中層大気 (津田)

プラズマ物理学 (大村)

惑星外圏科学 (小山)

パレオ太陽地球系科学 (山内)

3) 科学研究費の申請

4) 学術会議の支援

5) 予算案作成

皆様の積極的な参加とインプットをお願いします。

分科会活動報告

「金星研究会」の立上げ

渡部重十, 高橋幸弘, 中村正人

日本の本格的月惑星探査は、火星探査機「のぞみ」、月探査機「ルナA」「セレーネ」に続き、水星、金星などの地球型惑星へ、発展していこうと

しています。宇宙科学研究所では次期M-V惑星ミッションとして金星大気探査オービタ（Venus Climate Orbiter）の実行を理学委員会から所長に勧告し、2009年の金星到着へ向けて探査機・観測機器の準備が始まりました。金星だけでなく惑星研究は惑星表層から宇宙空間までを含んだ総合的な研究分野であり、惑星研究をより多岐とするためには理論・実験・モデリング（シミュレーション）の共同作業が必要です。ここで私たちは、金星に焦点を絞り、金星の科学を発展させるために、広範にわたる分野の研究者を取り込んだ研究を立ち上げようとしています。金星の科学には、私たちが今まで取り扱ってこなかった雲物理・大気放射・乱流過程・惑星表層と大気の相互作用等が含まれています。SGEPSSとは異なる分野とのコミュニケーションや共同研究には、新たな研究分野と新しい科学の発見・発展が含まれているはずで、研究をスムーズに立ち上げ発展させていくためにも、金星研究会をSGEPSSの分科会として定期的に行い、研究過程や結果をオープンにしようと思います。日本の金星研究のレベルを向上し、それを維持していくために、皆様の参加とご支援をお願い致します。

「古地磁気・岩石磁気研究会」の設立

井口博夫，綱川秀夫，山崎俊嗣，
鳥居雅之，渋谷秀敏

固体地球電磁気学の一分野として発展して来た古地磁気・岩石磁気学は、従来より、古地磁気編年やテクトニクス研究など、地質学分野に広い応用範囲を持っていましたが、近年、そのカバーする範囲はますます拡大しています。例えば、月や惑星に研究対象を広げつつあります。一方、岩石磁気研究手法を地球環境研究に応用する、環境岩石磁気学分野が新たに発展してきました。さらに、物性物理学分野より新たな実験手法が次々導入されています。また、陸上・深海掘削や惑星探査など、古地磁気・岩石磁気学分野に関わる大型研究プロジェクトが増加し、組織的な研究戦略立案が必要となっています。このような状況に鑑み、SGEPSSが従来よりカバーする固体地球電磁気学の研究領域を継続的に発展させるとともに、関連分野の研究者との交流を深め、古地磁気・岩石磁気学研究の一層の活性化を図るため「SGEPSS分科会 古地磁気・岩石磁気研究会」が設立されました。

設置目的は、

(1) SGEPSS内の関連研究分野間の交流を進め

るとともに、地質学、地震学、惑星科学、環境科学、物性物理学、生物学など関連する学会の研究者との交流を図り、古地磁気・岩石磁気に関する研究の活性化を行う。

(2) 海底・陸上掘削や惑星探査等の大型プロジェクトへ積極的に参画するための戦略的プランを検討する。

(3) 学生、若手研究者の育成を図る。

です。当面は従来より行なってきた夏の学校とメーリングを基にして活動する予定です。多くの皆様の参加を希望しています。

第110回総会 / 講演会関係

第110回総会および講演会は、11月22日から25日まで、九州大学にて行われる予定です。

【講演申込および予稿原稿送り先】

地球内部および月・固体惑星関係
〒670-0092 姫路市新在家本町1-1-12
姫路工業大学環境人間学部 井口博夫 宛

超高層（太陽・惑星間空間、地球・惑星電磁気圏
および地球・惑星大気）関係
〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
北大理学研究科地球惑星科学専攻 渡部重十 宛

【申し込みの方法（郵送）】

以下の(1)~(4)を上記送り先へ送付してください。

- (1) 講演申込用紙
- (2) 予稿原稿
- (3) 国立情報学研究所情報検索サービスへの登録用データ原稿及び、
- (4) 登録用データ（テキスト形式）ファイルがコピーされたフロッピーディスク

(1)、(2)、(3)はコピー各一部を同封して下さい。コピーを同封してないものは受け付けません。

講演申込みは筆頭著者一名につき、口頭発表一件、ポスター発表一件まで受付けます。但し、プログラム編成の都合上、実際の発表形式が希望通りにはならない事がありますので予めご了承下さい。また、非会員のみによる発表は受け付けません。

【書類作成上の注意】

(1) 講演申込用紙（15 ページのフォームをコピーし必要事項を記入）

講演題目は、予稿と同じ言語でお願いします。

英語講演題目は文頭、固有名詞、略号以外は小

文字としてください。

○講演申込用紙の氏名、所属はプログラム編集・印刷の都合上、日本語表記が可能な場合は必ず日本語でお願い致します。

○外国人の氏名はアルファベット表記でも差し支えありませんが、所属はできるだけ日本語で表示して下さい。

○口頭講演を希望する方で液晶プロジェクターもしくはスライドプロジェクターを使われる方は、その旨ご記入下さい。

(2) 予稿原稿

14ページのフォーマットに従い作成してください。左上の7mm×20mmのスペースは予稿集の印刷時に講演番号を付けるためのものですので、この部分には文字が入らないようにして下さい。

(3)(4) 国立情報学研究所情報検索サービスへの登録用データ

○16ページの原稿見本を参考の上作成し、A4用紙に印刷した原稿とそのコピーをお送りください。1頁に収まらない場合にはホッチキスで綴じてください。

○データを”著者名.gak”という名前のテキスト形式のファイルとしてフロッピーディスクに保存し、同封してください。

【WWWによる投稿の方法】

○郵送による方法に加え、WWWを利用した投稿の受付を行います。WWWを利用した投稿方法等についての詳しい情報は

<http://gakkai.stp.isas.ac.jp/sgepss/>

を参照して下さい。(8月中旬頃からサービス開始予定。)

【締め切り】

○予稿原稿の申込み締め切りは、郵送による場合には9月7日(金)、WWW利用の場合には9月8日(土)午前0時と致します。FAX、電話等による遅延の依頼は一切受けられません。

○総会議題の申込は、9月13日(金)迄に会長宛書面をお願いします。

予稿原稿フォーマット

A4用紙(タテ)に印刷してください

この欄には講演番号が入ります。
文字を入れないで下さい。

20mm 80mm 20mm

7mm 20mm

240mm

題目
著者名
所属

*連名の場合はスピーカーの左肩に*印を付ける。
*グループで申し込む場合も、スピーカーを明示する。

Title
Name
Affiliation

英文要旨
(本文が英文の場合には不要)

本文
(日本語または英語)

注意

1. この枠は範囲を示すものです。印刷しないでください。
2. 原稿は原寸大で予稿集に印刷されます。
3. ワープロの印字が薄すぎないように注意してください。
4. このページを141%に拡大コピーすると、ほぼ原寸の大きさとなります。
5. 必ずコピーを同封して下さい。

地球電磁気・地球惑星圏学会 講演申し込み用紙 (コピーしてお使いください)

1. 題目 (予稿原稿と同じ言語にて記入)

2. 氏名 (所属) (日本語にて記入、連名の場合スピーカーの左肩に*を付ける):

連絡先氏名: _____ e-mail: _____

Tel: _____ Fax: _____

3. 投稿区分 (番号に○をつけて下さい。複数選択可、最低1つは必須)

A. 地球内部・惑星

1. 地球内部電磁気学 (電気伝導度、地殻活動電磁気学)
2. 地磁気・古地磁気・岩石磁気
(主磁場ダイナモ、磁気異常、磁場計測、古地磁気・岩石磁気、月・隕石)
3. 比較惑星・太陽系
4. その他 ()

B. 超高層

- | | | |
|--------------|-----------------|----------------|
| 1. 対流圏/成層圏 | 2. 中間圏/熱圏下部 | 3. 熱圏/電離圏 |
| 4. 磁気圏電離圏結合 | 5. 磁気圏 | 6. 太陽圏 |
| 7. 惑星圏 | 8. オーロラ | 9. ストーム/サブストーム |
| 10. プラズマ波動 | 11. 理論・シミュレーション | 12. 観測技術開発 |
| 13. スペースプラズマ | 14. その他 () | |

4. 発表形式: 1. 口頭 2. ポスター 3. どちらでも可
(やむを得ずご希望に添えないことがあります)

5. 使用機材 (OHP 以外): 1. 液晶プロジェクター 2. スライドプロジェクター

6. 発表順位: 以下の講演の (前/後) を希望します.

著者: _____

題目: _____

7. その他ご希望、ご意見などがありましたら以下に記入してください。

予稿原稿は14ページのフォーマットに従って、A4用紙にワープロで清書して下さい。
この申し込み用紙と予稿原稿のコピーを1枚ずつ同封してください。

【国立情報学研究所情報検索サービス登録用データ原稿見本】

A4用紙に印刷した原稿とそのコピーをお送りください。1頁に収まらない場合にはホッチキスで綴じてください。

A1: 磁気圏境界におけるプラズマ波動の特性

B1: Plasma wave features at magnetospheric boundaries

C1: 日本語

E1: 松本/紘

F1: マツモト/ヒロシ

G1: Matsumoto/Hiroshi

J1: 京都大学超高層電波研究センター

K1: キョウトダイガクチョウコウソウデンパケン
キュウセンター

L1: Radio Atmospheric Science Center, Kyoto
University

E2: 中尾/健司

F2: ナカオ/ケンジ

G2: Nakao/Kenji

J2: 京都大学超高層電波研究センター

K2: キョウトダイガクチョウコウソウデンパケン
キュウセンター

L2: Radio Atmospheric Science Center, Kyoto
University

E3: 小嶋/浩嗣

F3: コジマ/ヒロツグ

G3: Kojima/Hirotsugu

J3: 京都大学超高層電波研究センター

K3: キョウトダイガクチョウコウソウデンパケン
キュウセンター

L3: Radio Atmospheric Science Center, Kyoto
University

M: ジオテイル, プラズマ波動, 磁気圏境界, パウ
ショック

N: GEOTAIL, plasma waves, magnetosphere,
boundaries, Bowshock

T1: Characteristic wave features of plasma and
radio waves in the vicinity of magnetospheric
boundaries such as Bow Shock, Magnetopause
and Plasmapause are examined based on

GEOTAIL PWI data for three years from 1994 to
1997. GEOTAIL traverses these boundaries
regularly and quasi-periodically and provide a
unique set of wave data which enables us to
study plasma wave nature at these boundaries
and various plasma area nearby. We will discuss
the wave nature based on both single event
study and statistical analysis.

各項目の先頭にはA1:, ..., T1:の記号を書き込んで
ください。罫線枠は不要です。

A1:日本語タイトル(英語タイトルのみの場合は無
くてよい)

B1:英語タイトル(基本的に大文字はタイトル先頭
のみ)

C1:使用言語(講演に際し使用する言語。日本語ま
たは英語)

E-G:著者(E.漢字、F.カタカナ、G.ローマ字)

姓名の間は/で区切る。ローマ字名も姓名の順。著
者順に従い、E1-L1、E2-L2、E3-L3と番号をふる。
外国人の場合は、E*は不要、またグループの場
合はJ-Lも省略可。

J-L:所属機関(J.漢字、K.カタカナ、L.英文)

国立情報学研究所情報検索サービスの規約により、
所属機関は論文発表時のものとし、元、現などはつ
けないで下さい。また機関名は省略しないで下さ
い。東工大ではなく東京工業大学。ただし株式会
社や財団法人などは入れない。株式会社日立製作所
ではなく日立製作所。NHKなど略称が広く知られて
いる場合は略称でも可。

M:日本語キーワード(6個以内)を記入。

N:英語キーワード(6個以内)を記入。

T1:英文抄録を100語前後で記入。予稿本文の内容
を整理する形で書いて下さい。日本語抄録は必要あ
りません。

郵送の場合、テキストファイルのフロッピーの同封
もお忘れなく。

【宿泊・航空券案内】

(申し込みは各自でお願い致します)

* 問い合わせ・申し込み書類送付先

(株)日本旅行福岡支店

地球電磁気地球惑星圏学会 トラベルデスク

担当: 松熊, 柴田

〒812-0011福岡市博多区博多駅前3丁目25-24

TEL: 092-431-7289, FAX: 092-472-7199,

E-MAIL: fuk_gakkai@nta.co.jp

宿泊料金は原則として『1泊朝食付き、税金、サービス料込み』です。「お申込書」に記入の上、郵送、FAXまたはE-MAILで申し込みください。予約は申し込み順となり、満室の場合は他のホテルになります。手配終了後にFAXか郵送にて回答し、請求は宿泊確認票と共に郵送します。

* 代金の支払い: 振り込みまたは郵送での支払いとなります。

* 変更・取り消しについて: 変更・取り消しは早めに連絡下さい。申し込み後の取り消しについては宿泊施設・航空会社・JR等の規定に基づき取り消し料を請求いたします。

*** 宿泊施設リスト ***

地区 ランク ホテル名 宿泊料金(シングル, 1泊朝食税サ込み) 備考

博多駅

C 博多グリーンホテル	6,800	博多駅より歩3分
C サンライフホテル	6,500	博多駅より歩1分
C 博多パークホテル	6,800	博多駅より歩6分
C 東洋ホテル	6,500	博多駅より歩2分
B サンルート博多	8,600	博多駅より歩3分
A 博多都ホテル	10,500	博多駅より歩2分

天神地区

C アセントホテル	7,500	地下鉄天神駅より歩3分
B アークホテルロイヤル	8,000	地下鉄天神駅より歩7分
B 天神センターホテル新館	8,500	地下鉄天神駅より歩5分

*** 航空券のご案内 ***

『往路・区間』 出発時間 / 到着時間

羽田 / 福岡	08:35 / 10:15
	11:55 / 13:35
	17:00 / 18:40

名古屋 / 福岡	08:00 / 09:15
	15:45 / 17:00
大阪 / 福岡	07:55 / 09:00
	15:25 / 16:30
札幌 / 福岡	14:05 / 16:40
仙台 / 福岡	19:30 / 21:40

『復路・区間』 出発時間 / 到着時間

福岡 / 羽田	10:00 / 11:30
	19:30 / 21:00
	20:30 / 22:00
福岡 / 名古屋	10:00 / 11:10
	19:20 / 20:30
福岡 / 大阪	10:25 / 11:30
	19:30 / 20:35
福岡 / 札幌	09:55 / 12:05
福岡 / 仙台	10:00 / 11:40

『割引航空運賃(設定便)』(片道)

東京	17,000円
名古屋	12,000円
大阪	11,000円
札幌	23,000円
仙台	21,000円

【会場へ交通】

以下のweb siteに箱崎地区のアクセス方法、地図等が記載されてありますので、ご活用下さい。

<http://www.kyushu-u.ac.jp/htmlpage/campas.htm>

***** 宿泊・航空券申込書 *****

申込年月日: 年 月 日

お申込者氏名(フリガナ)

所属

クーポン券送付先住所 〒

連絡先電話

FAX

email

宿泊日 11/21 11/22 11/23 11/24 11/25

宿泊者氏名(フリガナ) ホテル名

航空機搭乗者(フリガナ) 年齢

利用日/時間・区間

田中館賞候補者推薦の募集

田中館賞は、地球電磁気及び地球惑星圏科学において顕著な学術業績をあげた本学会員に授け、これを表彰するもので、本学会員が受賞候補者を会長に推薦し、評議員会の議決により受賞者が決定されます。推薦される場合は、推薦状、候補者の業績（論文）リストと（主要論文3-5編の）別刷り、略歴書、各11部を8月末日（必着）で、会長宛お送りください。

国際学術基金関係

国際学術交流事業運用規定の改正

この度、西田篤弘会員から寄付された800万円により「西田国際学術交流基金」が設立されました。それに伴い、「国際学術交流事業運用規定」を以下のように改正し、第109回総会で承認されました。総会では、規定の細部について改善すべき点が指摘されましたので、次回総会までに運営委員会でさらに検討を行う予定です。

国際学術交流事業運用規定

平成13年6月7日改正

目的：

本学会会員と世界の地球電磁気・地球惑星圏科学関係の研究者との学術交流を図る。

事業内容：

- (1) 本学会が主催または共催する研究集会に参加する外国の研究者の来日旅費および滞在費（全額または一部）を補助する（略称：外国人招聘事業）。
- (2) 外国で開かれる国際的な研究集会へ主として若手の会員が参加するための経費（渡航旅費および滞在費）の一部を補助する（略称：若手派遣事業）。
- (3) 国際学術研究集会等、広く国際学術交流の推進に役立つ事業への補助を行う。

資金および運用計画：

上記事業は、以下の2つの基金により運用される。

学会基金

西田国際学術交流基金

ただし、学会基金は上記事業(1),(2),(3)に当て、西田国際学術交流基金は(1),(2)に当てる。学会基金は、(1)については主としてアジア諸国の研究者を対

象とする。原則として(1)と(2)については、それぞれ若干名、(3)については、本学会が主催または共催するもので、本学会会員の多数の参加が見込まれるものに限り、年間1件以内とする。

応募資格：

(1)については参加する研究集会で論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定の者。ただし、事務連絡等の対応について世話のできる国内の会員を通じて応募することが望ましい。

(2)については35才以下（応募期日時）の地球電磁気・地球惑星圏学会正会員で国際的な学術研究集会に出席し論文の発表又は議事の進行に携わる予定の者。

補助金の応募：

- (1)については本人あるいは世話に当たる会員が、
- (2)については当該集会等へ出席する会員が、また
- (3)については、その事業責任者である会員が運営委員会に申請、または、推薦する。なお、応募書類は(1)と(2)については別に定めるが、(3)については特に定めない。

補助金受領者の選考：

- (1)については、年2回会報で公示し、運営委員会で決定/通知、補助金は講演会会場で附与する。(2)については、年2回会報で公示し、運営委員会で決定/通知、学会事務センターより送金する。また(3)については、年1回会報で公示し、選考にあたっては学識経験者よりなる選考委員会を設けることがある。

補助金受領者の義務：

補助金受領者は、当該活動の終了後30日以内に本人、世話会員または事業責任者である会員によって運営委員会に報告書を提出しなければならない。なお、この報告書は学会会報に掲載される。

事業報告：

会長は事業内容を年度毎にとりまとめ、基金関係者に報告する。

事業内容の変更：

本事業の内容に変更がある場合は、学会規約第18条により総会で承認を受ける。

(運営委員会)

国際学術交流若手派遣の募集

国際学術交流事業の一環として、外国で開催される国際的な学術交流集会（米国地球物理学連合秋期大会等も含む）へ参加するための経費（渡航旅費及び滞在費）の一部補助を行います。

今回の募集対象となるのは、2001年10月1日から2002年3月31日の期間に外国で開かれる国際的な学術研究集会参加者です。応募資格は、応募期日に35才以下で、集會に出席し論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定の地球電磁気・地球惑星圏学会会員です。派遣人数は若干名（2-3名程度）です。

応募される方は、所定の申請書（PDFファイルまたは学会事務センター備付）に必要事項を記入の上、運営委員会（学会事務センター気付）宛、8月末日までに必着でお送りください。補助金受領者の選考・義務等については、当会報掲載の国際学術交流事業運用規定あるいは <http://130.54.58.249/sgeweb/kokusaikoryu.html> を参照して下さい。

国際学術交流外国人招聘の募集

国際学術交流事業の一環として、外国の関連分野研究者が本学会春季、秋季講演会または本学会が共催あるいは協賛する研究集会に参加するための来日旅費及び滞在費の補助を行うもので、今回は、2002年4月1日～9月30日の期間に開催される集會の参加予定者が対象となります。

応募資格は、上記の講演会・研究集会で論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定の外国の関連分野研究者で、当該研究者の推薦は本学会会員が行います。招聘予定人数は若干名（1-2名程度）で、推薦者は必要書類として、所定の申請書類（PDFファイルまたは学会事務センター備付）および渡航費の見積書を11月15日までに運営委員会（学会事務センター気付）宛必着でお送りください。補助金受領者の選考・義務等については、当会報掲載の国際学術交流事業運用規定あるいは <http://130.54.58.249/sgeweb/kokusaikoryu.html> をご参照下さい。応募資格等について不明な点は、総務までご連絡願います。

研究助成・学術賞等の募集

前会報発行以後、下記の募集案内が学会宛届いています。これまでの分も含め、学会ホームページ「研究助成」の項目

<http://130.54.58.249/sgeweb/zaidan.html/#FINANTIAL>

にも掲載されていますので参照願います。

* 女性科学者に明るい未来をの会・猿橋賞

- 1 本賞は自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めた女性科学者（ただし、下記の推薦締切日で50才未満）に贈呈されます。
- 2 本賞は賞状とし、副賞として賞金(30万円)がそえられます。
- 3 本賞の贈呈は1年1件(1名)です。
- 4 所定の用紙に受賞候補者の推薦対象となる研究題目、推薦理由(400字程度)、略歴、主な業績リスト、主な論文別刷10編程度、及び推薦者氏名・肩書きを、下記事務所までお送り下さい。
- 5 締切は2001年11月30日(必着)。
- 6 第22回の賞贈呈式は、2002年5月、東京において行なわれる予定です。
- 7 連絡先：女性科学者に明るい未来をの会
166-0002 東京都杉並区高円寺北4-29-2-217
電話03-3330-2455(FAX 兼用)

* 女性科学者に明るい未来をの会・研究奨励賞

- 1 海外のシンポジウム等に出席し、論文を発表する女性研究者に対する研究助成です。
- 2 助成金は1件10万円とし、年に数件です。
- 3 所定の用紙に推薦対象者(各締切日において満40才未満)の略歴、研究業績、国際会議名(主催団体、開催場所、年月日)、発表論文題目、推薦理由等、及び推薦者氏名・肩書きを記入して下記事務所までお送りください。
- 4 締切は2001年11月末日と2002年4月末日の2回
- 5 連絡先：女性科学者に明るい未来をの会
166-0002 東京都杉並区高円寺北4-29-2-217
電話03-3330-2455(FAX 兼用)

* 日本証券研究調査助成（平成13年度）

1 学術文化の研究調査に従事する55才以下の個人またはグループが対象。

2 対象分野は社会科学及び自然科学とし、法学、経済学、社会学、理学、工学の5部門。なお各分野ごとに、次に該当する研究調査が重視されます。

(1) 社会科学分野（法学、経済学及び社会学）においては、国際化や科学技術の高度化に伴って生ずる諸問題など、現在の重要課題に関する研究

(2) 自然科学分野（理学及び工学）においては、新素材及び環境改善に関する萌芽的研究

3 助成金は総額4,000万円で、一件当たり100万円程度、特に必要と認められる場合は300万円の範囲内で助成を行う。

4 申請手続は、本財団所定の申請書に所属機関長及び同じ専門の学者の推薦書を添え、平成13年8月17日(金)までに提出。

5 締切は2001年8月17日（下記連絡先に提出）。

6 決定通知は11月上旬頃書面にて。

7 給付時期は決定通知後1ヶ月以内。

8 連絡先（財）日本証券奨学財団

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町1丁目5-8
東京証券会館6階

TEL: (03)3664-7113 / FAX: (03)3662-1607

関連研究会のご案内

第1回国際金星ワークショップ - 21世紀の金星探査 -

場所：宇宙科学研究所 研究管理棟2階会議場

期日：平成13年10月15日（月）～17日（水）

現在、世界的に金星探査への機運が盛り上がり、日本を含め世界中で7つ以上の探査計画が議論されており、このような状況のもと、昨年開催された COSPAR総会の金星・火星セッションでは、今後探査を効率よく進めるべく金星探査計画を世界的にオーガナイズしていこうとの決議がなされました。本ワークショップはこの基本的考えによって開催されるものであります。またこのワークショップにおいては特に日本で2007年打上げを目指して検討中の金星探査計画を、各国の研究者との議論を通してより実りあるものになりたいと思っております。本ワークショップのプログラムとしては、

1) 金星における未解決の問題の総括、

2) 各国の金星探査計画の紹介、

3) 今後の金星計画の進め方について、

4) 金星探査計画と社会とのつながりおよび啓蒙と教育的活動、

の4つのテーマを議論の中心に据えポスターセッションを設けて上記の範疇に入りにくい一般講演の時間も設ける予定です。

本ワークショップの詳細については下記URL中の国際金星ワークショップのページをご覧ください。

<http://www.ted.isas.ac.jp/~venus/>

（阿部琢美）

人事公募

独立行政法人通信総合研究所研究職員公募

公募人数：10名程度

研究領域：通信ネットワーク（情報通信
ヒューマンコミュニケーション技術 無線通信システム・電磁環境 宇宙通信システム・衛星測位 地球環境計測 宇宙天気予報 標準周波数・標準時・高精度時空計測 光情報通信 情報通信のための材料・デバイス 生物情報

採用方針：新卒、中途、年齢、国籍不問

採用区分：選考採用（採用時に博士学位を有する等の条件を満たすことが必要。36歳未満は、原則として3年間の任期付き）試験採用（国家種合格者。任期なし）

採用時期：原則として2002年4月1日

応募締切：2001年8月31日（随時受付）

問合せ先〒184-8795 通信総合研究所総務室

馬淵042-327-7625 mabuchi@crl.go.jp

その他：応募資格、提出書類等の詳細な情報は

<http://www.crl.go.jp/>をご覧ください。

福井工業高等専門学校電気工学科教官公募

公募人員：教授又は助教授1名

公募分野：電子回路、情報通信に関する分野

応募資格：

1)博士の学位を有する方

2)高等専門学校の教育・研究・学生指導に理解と熱意の有る方

着任時期：平成14年4月1日

提出書類 :

- 1) 履歴書(市販のものと同じ書式としワープロ可。写真添付)
- 2) 研究業績一覧表(博士論文, 口頭発表等を含む。主要論文別刷り添付)
- 3) 「高等専門学校における教育・研究に対する抱負」について記したもの(A4 1枚程度 1,000字以内)

応募締切 : 平成13年9月3日(月) 必着

選考方法 : 一次: 書類選考、二次: 面接

書類提出先:

916 - 8507 鯖江市下司町

福井工業高等専門学校庶務課人事係

* 書留郵便とし、「電気工学科教官応募書類在中」と朱書して下さい。

問合せ先 : 916 - 8507 鯖江市下司町

福井工業高等専門学校電気工学科

主任 北 一麻呂

TEL. 0778 - 62 - 8262

E-mail kita@fukui-nct.ac.jp

賛助会員リスト

7月1日現在の賛助会員のリストを掲載致します。

エコー計測器(株)

〒182-0025 調布市多摩川2-3-2

tel 0424-81-1311 fax 0424-81-1314

URL <http://www.clock.co.jp/>

(有) オプティマ

〒134-0083 江戸川区中葛西5-32-8

tel 03-5667-3051 fax 03-5667-3050

URL <http://www.optimacorp.co.jp/>

クローバテック(株)

〒180-0006 武蔵野市中町3-1-5

tel 422-37-2477 fax 0422-37-2478

国際電子工業(株)

〒164-0014 中野区南台5-34-10

tel 03-3384-4411 fax 0426-61-8533

URL <http://homepage2.nifty.com/kokusaidenshi/index.html>

(株) ソフトビル

〒861-3513 熊本県上益城郡矢部町下市40-1

tel 967-73-1111 fax 0967-73-1119

(有) テラ学術図書出版

〒158-0083 世田谷区奥沢 5-27-19

三青自由ヶ丘ハイム2003

tel 03-3718-7500 fax 03-3718-4406

URL <http://www.terrapub.co.jp/>

(有) テラテクニカ

〒206-0812 稲城市矢野口 3266-1 ランド式番館

tel 42-379-2131 fax 042-370-7100

(株) 夏原技研

〒532-0012 大阪市淀川区木川東 3-6-20

第五丸善ビル

tel 06-6390-8418 fax 06-6390-8436

日本電気(株) 宇宙開発事業部事業計画室

〒224-8555 横浜市都筑区池辺町4035

tel 045-939-2376 fax 045-939-2408

富士通(株) 宇宙システム部

〒261-8588 千葉市美浜区中瀬 1-9-3

幕張システムラボ

tel 043-299-3247 fax 043-299-3012

URL <http://jp.fujitsu.com/>

松下通信工業(株) コミュニケーションシステム

事業部技術3部設計1課

〒223-8639 横浜市港北区綱島東4-3-1

tel 045-544-3551 fax 045-544-4675

URL <http://www.mci.panasonic.co.jp/>

丸文(株) 営業本部航空宇宙部計測機器課

〒03-8577 中央区日本橋大伝馬町 8-1

tel 03-3639-9821 fax 03-3661-7473

URL <http://www.marubun.co.jp/>

明星電気(株) 守谷工場技術部

〒302-0192 茨城県北相馬郡守谷町守谷甲 249-1

tel 03-3814-5123 fax 03-3813-9774

SGEPSS Calendar

[2001年]

- 8月1日～4日： AP-RASC '01 2001年アジア太平洋電波科学会議 中央大学、東京
- 8月18日～30日： IAGA-IASPEI Joint Scientific Assembly Hanoi, Vietnam
- 11月22日～25日： 第110回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会 九州大学、福岡
- 12月10日～14日： AGU 2001 Fall Meeting San Francisco, U.S.A.

[2002年]

- 4月22日～26日： 27th European Geophysical Society Nice, France
- 5月28日～6月1日： AGU 2002 Spring Meeting Washington D.C., U.S.A.
- 7月9日～12日： Western Pacific Geophysics Meeting Wellington, New Zealand
- 10月10日～20日： 34th COSPAR Scientific Assembly(2nd World Space Congress) Houston, U.S.A.
- 12月6日～10日： AGU 2002 Fall Meeting San Francisco, U.S.A.

運営委員会からのお願い

(メールアドレスの新規登録、変更)

運営委員会からのアナウンス等、学会ホームページ
掲示板記事のE-mail配信を受けておられない方で、
新規に登録を希望される方は、登録したいメールア
ドレスから

sgepssbb-request@kurasc.kyoto-u.ac.jp

にメールを送るだけで自動登録されます。

また、既に配信を受けられていた方で、最近メール
アドレスを変更された方は、訂正前と訂正後の

E-mailアドレスを必ず両方書いて

sgepss-request@kurasc.kyoto-u.ac.jp

まで、ご連絡願います。ホームページ担当委員が修
正作業をします。

(入会申し込み、会報への投稿など)

入会申し込みは運営委員会宛、研究助成金案内は総
務宛、会報への投稿は担当庶務宛ご連絡ください。
会報へのご提案、ご意見、情報提供、寄稿をお待ち
しています。

地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS)

会長 荒木 徹 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科

TEL: 075-753-3951 FAX: 075-722-7884 e-mail: araki@kugi.kyoto-u.ac.jp

総務 家森 俊彦 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科

TEL: 075-753-3949 FAX: 075-722-7884 e-mail: iyemori@kugi.kyoto-u.ac.jp

庶務 小原隆博 (会報担当) 〒184-8795 東京都小金井市貫井北町4-2-1 通信総合研究所 第3部門

TEL: 042-327-6431 FAX: 042-327-6661 e-mail: T.Obara@crl.go.jp

運営委員会 〒113-8622 東京都文京区本駒込5丁目16番9号学会センターC21 学会事務センター気付

TEL: 03-5814-5810 会員業務 (入退会、住所変更等、会費、会誌)

TEL: 03-5814-5801 学会業務 (庶務、窓口、渉外)

FAX: 03-5814-5820